

**広島大学医学部****地域医療システム学 竹内啓祐教授 からの便り**

本年4月1日付で広島県の寄附講座として、広島大学医学部に地域医療システム学講座が設置されました。私は自治医科大学を昭和55年に卒業し、義務年限終了後も一貫して広島県の職員として中山間地域医療に従事して参りました。広島県の東西南北を熟知させていただきました。

我々のミッションは二つです。一つは、学生／研修医へ地域医療の意識を高めること、もう一つは地域医療確保のためのコーディネート業務です。

学生に対しては早速今年度より5年生全員に1週間泊まり込みの地域医療実習を開始いたしました。安芸太田病院、庄原赤十字病院、神石高原町立病院の献身的な協力のおかげで、順調に研修は滑り出しました。学生の評価も驚くほど良好で、医師の卵としての使命感をくすぐり始めているような印象を持っています。また、今年度から17名に増員されたふるさと卒学生に対しても、定期的な会合を持っています。彼らには、地域医療の楽しさ、やりがいを早期から体験してもらい、田舎に対する抵抗感を和らげたいと考えています。この夏には「島の医療を考える」と銘打って学生自ら計画するセミナーを行いました。

広島県は海と山に囲まれ自然が豊かで、気候も温暖で、人口もほどほど居て、カーブもサンフレッチェもあって、世界遺産が2つもあり、お好み焼きともみじまんじゅう、牡蠣とおいしい地酒もあり、郷土愛も皆そこに持っていて、こんなに住みよい所なのに、どうして医師が不足するのでしょうか？基本的には人口に比較して、医療機関が1つしかない、ということです。実は、人口10万人あたりの医学部定員数をみると、広島県は全国で下から5番目で、しかも他の4県は首都圏と静岡県ですから、ほとんど最下位と言ってもよいでしょう。ですので、皆さん、是非、広島県においでください。我々が仲介して、ご希望に添うようにコーディネートさせていただきますと考えております。

広島県は、医師不足対策として他県が実施して有効と思われる手立てはほぼすべて実施してきました。ふるさとドクターネット広島もその一環です。すばらしい事例もあるのですが、しかし、他県同様なかなかこれといった決め手にはなっていません。複合的に地道な努力の積み上げしかないのでしょうか。そこで、広島県はさらなる対策として、地域医療再生計画の一つとして当講座を設置しました。できたてほやほやの講座ですが、幸いすばらしいスタッフと一緒に仕事をスタートすることができました。一人は松本正俊准教授です。彼は平成8年に広島大学を卒業後、自治医科大学に12年間勤務し、まさに地域医療学の専門家として研究、教育を実践しています。また、服部文子講師は神石高原町立病院で勤務しながら、学生や研修医を教育いただいています。皆で力を合わせて、広島県に医師が定着し、地域医療が充実するよう頑張っていきたいと思っていますので、どうぞよろしく願います。



広島大学医学部地域医療システム学講座

竹内啓祐 教授